

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 ユニット名 そら

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社 サンメディカル		
事業所名	グループホーム サンパーク笑う門 ユニット名 そら		
所在地	〒020-0823 岩手県盛岡市門1丁目15-27		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりとの関わりを大切に、感謝の気持ちを言葉で伝え、ゆったりと笑って過ごせるよう支援している。弊社サンメディカルは福祉用具のレンタル、販売をしており、ご利用者様の生活状況に合わせた福祉用具、衛生用品の提供ができる。健康管理では口腔ケアや排便コントロールに力を入れている。食事については食事量のお好みに応じ柔軟に対応している。水分チェックを行い好みのものを用意飲んでいただいている。電解水素水の医療機器を設置し調理で使用し減塩に取り組んだり、飲用して頂いている。町内会の行事、草取りにも参加している。避難訓練には、町内会の方も参加している。すぐそばに大きな公園もあり静かな住宅地という事もあり、散歩に出掛けたり、近所の方と会話する機会もある。ホーム前の畑では野菜を育て収穫を楽しみ、一緒に調理を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、系列の有料老人ホームとデイサービスセンターが隣接する、周囲にアパートが多い住宅地にある。町内会に加入し行事など積極的に参加しているが、小中学校や保育園の公共施設が遠く、地域住民との交流に苦勞をしているが、運営推進会議委員の町内会長や民生委員、地域住民との繋がりを大切に災害時の協力体制を構築している。訪問診療では内科医だけではなく、眼科・耳鼻科、皮膚科の専門医の訪問診療もあり医師・訪問看護師・薬局師との連携が取れている。利用者の楽しみを食事ととらえ、行事食やお楽しみの食事にデザートの出出し弁当や有名鮮魚店からの購入をアピールして特別感を出し、利用者を楽しませ寄り添う支援を工夫している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域・家族とともに支援したいとしている。町内会の行事に参加し交流をしている。職員間で理念を確認している。	会社「理念」のほか、グループホームの「宣言」「心得」を常時職員が確認できるよう事務室に掲示し、業務のあらゆる場面で意識し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や会報をいただき、町内の行事(町内清掃・運動会・資源回収)に参加している。古新聞を頂いていたり、町内の訪問理容を利用している。	町内会に加入し、回覧板や門地区会報の配布がある。会報には運営推進会議のお知らせも掲載してもらっている。例年であれば参加している町内清掃や運動会等の行事は、コロナ禍のため、今年は未実施となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパー等に一諸に出掛けている。散歩の時に声を掛けていただいている。 また 運営推進会議を有料 デイサービスと一諸に報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況、健康状態、研修、地域交流の報告をしている。また ホームに設置された電界水素水の説明と会社で月1度行われている 移乗研修に参加している。	町内会長・民生委員・地域住民・地域包括支援センター・調剤薬局・家族代表を委員に迎え、年6回開催している。委員からは、テレワークの導入や感染症への対応などへの助言があった。提言の実現に向け会社に協議している。4月以降書面開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市には毎回運営推進会議録を提出。意見書開示のお願い、地域包括支援センターには毎回運営推進会議で助言をいただいている。	利用者の要介護認定や介護報酬の加算等の申請事務、運営推進会議の報告などで、直接市役所に出向いている。随時、相談・報告して密に連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夕方の戸締り以外施錠する事なく、本人の動きを止めないで受け入れる支援をし、一人ひとりの位置確認に意識する努力をしている。また 離床センサー、見守りロボットを使用している。合同で研修をしている。	それぞれ(そら・だいち)のグループホームから管理者と職員1名が委員となり、3ヶ月に1回、委員会を開催し、職員全員参加の研修会を開催している。スピーチロックとなりそうな場合には、その都度管理者が注意している。家族の同意のもと3台の見守りロボットを導入し職員が必ず確認をしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 ユニット名 そら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご本人を受け入れる事を基本にしている。周辺症状の表れに注意し内出血等あれば原因を探りケアの見直しをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全てにおいて受け入れることから始める基本姿勢や理念にそって振り返りをして支援している。研修に参加し職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には目的、入院した場合、看取り、入居料金、面会等説明。それぞれのご家族が心配、不安な点を時間をかけてその都度説明している。料金変更があった場合には重要事項説明書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見投書箱を置いている。面会、サービス計画書の説明時にご家族の要望を確認している。利用者様の一般状態の変化として現れる不安に対する対応に気配りしている。	家族が運営推進会議や面会、サービス計画の見直しの面談で来所した際に意見要望を聴いている。利用者の好きなものを食べさせてほしい等の要望があり、対応している。投稿実績はないが玄関に意見投書箱を置いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のカンファレンス及び連絡ノートを活用してサービス計画、業務、勤務表等に関して意見交換をしている。業務日誌の記入者は何でも記入して会社代表者に訴えたり、携帯で話ができるようにしている。	業務に関する要望等は、日誌や連絡ノートに記入している。年に一度の契約更新時の会社幹部との面談の際にも意見や業務改善に関する提案を話している。ソファ購入やパソコン更新、福祉用具配置、紙ベースでの給料明細発行などが具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の役割をもち責任をもって行えるようにしている。 勤務が平等になるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や研修歴を考慮し、希望を聞きながら研修をうけれるようにしている。 また 社内研修等に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平常時はグループホーム協会例会、ブロック会の研修に参加して情報交換をしているが現在は自粛中。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式から情報を得て、ご本人の生活歴を知る事から始めている。 家族様に面会の回数を増やしていただき、一諸に関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の利用者様と家族の関係を理解し相談、申込み、契約、面会時など話を傾聴することから始めている。電話で様子を伝えたり、家族には都合の良い時間に面会に来ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報や見学時の様子からどのような支援が必要かを考えながら、見守りをし出来ない事、不安に思っている事を職員間で共有して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活リズムに合わせてコミュニケーションをとりながら、一諸に出来る事を探し一諸に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に家族と一諸に支えたいと説明し、相談しながら対応している。病院の受診を家族にお願いしたり、希望にそった外出外泊をしている。寝具、衣類の交換を家族にお願いして、面会の機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	平常時はお盆、お正月、お彼岸など外出 外泊をしていただいているが、現在コロナ禍で制限しているため、電話をする回数を増やしている。	利用者の手紙と一緒に日常生活の様子の写真を郵送し、家族との関係を大切にしている。傾聴ボランティア(月1度2、3人来訪)や訪問理容(2ヵ月毎に来訪)が新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に見守りして変化に注意している。出来る事興味がある事に職員が一諸に関わっている。良い関係作りが出来るように寄り添っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になっても家族からの相談に対応している。ケアマネジャーとも情報交換し関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の変化に注意して、表現できない思いをくみとり関わりを持ちながら表情を観察して対応している。	利用者が直接、思いを伝えることが事が少ないため、相互の信頼関係を大切にしながら、利用者一人一人の普段の生活や行動を注意深く見守り、話し方や表情から、その背景にあるものを深く掘り下げることで思いや意向を汲み取り、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報はセンター方式に記入していただき情報を得ている。様子に変化があった時などは家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムシートや健康チェックシートをもちいて変化等を常に把握に努め、日々モニタリングしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報交換し課題の確認をしている。アセスメント用紙を職員で共有できるところに書き込みやすいようにしている。	利用者個々の担当職員を置いていない。職員全員が、業務日誌のカンファレンス欄に利用者の普段の生活を通じて気づいた変化を記載している。計画作成担当者は、それを基に計画の見直し案を作成し、職員の賛同を経て、家族や医師等の意見等も盛り込んで成案としている。計画の見直しは3ヵ月毎としている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 ユニット名 そら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活リズムシートや健康チェックシートで職員間でアセスメントし、共有して計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身体状況に合わせて福祉用具を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ近所の方と話をしたり、買い物に近所のスーパーに出かける事もある。町内のリング畑に花見ドライブに出かける。コロナ禍で自粛中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も利用者様 ご家族が望む主治医に受診をお願いし連携をとっているが、受診が困難になった方は希望により訪問診療に切り替え、支援をしている。	月2回の訪問診療は、だいち9人、そら4人の13人、家族付添いのかかりつけ医受診はそら5人となっている。家族付添いの際の医師への情報提供や訪問診療結果の家族への連絡を通じ、情報の共有を図っている。専門科(眼科・皮膚科・耳鼻科)の訪問診療も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し月4回程度、健康相談や緊急時電話をして相談する事もある。看護師とは健康状態を共有し連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合には、情報提供し生活の様子、認知症状を伝えている。面会を頻回にして安心できるようにしている。相談員との連携に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制、看取りに関する指針を説明している。利用者様や家族様とは会話の中から確認してサービス計画にのせている。	利用開始時に重度化や看取り対応の医療連携体制を説明し、入居後は介護計画の見直し時、体調の変化や入院時など、機会を捉えて家族の希望を重ねて確認している。これまで両ユニット合せて5人の看取りを経験しており、その都度、看取り対応への職員の正直な感情を語ってもらう機会を設けるなど、職員のマインド等に対する支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画で通報訓練やAEDの使い方など訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て毎月訓練を行っている。年2回デイサービスと合同避難訓練を行い消防署の指導を受けている。セコム火災センサー作動で地域住民に連絡が行くようになっている。水害時訓練も行っている。	消防署立合いの火災訓練(年2回うち夜間想定1回)とハザードマップで浸水想定地区としての水害想定訓練(年1回)を実施している。消防への自動通報、警備会社からの通報で協力いただく住民の方々へ連絡する体制を整えている。近くの公民館が避難場所となっている。	ハザードマップで水害危険区域とされており、避難場所への移動経路には浸水の恐れのある箇所もあるため、運営推進会議での意見等に併せ市の助言も得て、必要な対応を検討することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定 注意する事なく受け入れて ご本人の意向を確認しながら支援している。	トイレ誘導の声かけや入浴時脱衣所の照明を落とすなど、羞恥心へ配慮している。居室の入り口に暖簾をかけ、個人のスペースの「しるし」とし個人のプライバシーへ配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や動作から気持ちをくみ取り、傾聴して生活が整うように、また出来るだけ自ら発する事が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、起床時間をご本人の希望にしている。散歩したい、ドライブしたいという ご本人の願いを聞き支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 ユニット名 そら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて ご自分で選ぶ事が出来るようにしている。個々の生活習慣に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けを一諸に行っている。役割がもてるよう支援している。	畑で栽培した野菜の収穫、配膳・後かたづけ、調理の手伝いなど、利用者それぞれが何かしらの役割を持っている。季節の行事食(ひな祭り・お正月・誕生会等)のほかデパートの仕出し弁当や古くからある鮮魚店の魚を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事についてはご本人にとって食べやすい形 大きさ 硬さに配慮しバランスがとれるよう支援している。 水分も容器を変えたり 好みの物を用意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回の歯磨きや口腔内の観察をし必要に応じて介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を確認して、出来ないところを支援している。	排泄のサイクルを見極めて誘導している。両棟で自立1人、トイレに行きたいと訴えのある人2人、おむつ利用5人(夜のみ2人を含む。)、他はリハビリパンツを利用している。出来ることは自分で行い、できないことを支援することを基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏、腹痛、食欲等を観察して主治医・訪問看護と相談してコントロールしている。予防は散歩や運動と水分摂取量の維持に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定はあるが個々の都合に合わせている。ご本人の思いを聞き希望に添うよう努めている。	利用者は週2、3回入浴している。暑い日は急遽シャワー浴をしたりと、希望に応じて柔軟に対応している。様々な入浴剤を日替わりで楽しみ、希望に合わせてラジカセで音楽を流している。脱衣所の照明を暗くして、羞恥心にも配慮している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 ユニット名 そら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制はしないが昼寝を促している。季節に合わせた寝具の調節をしている。アイスノンや湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を全員で確認し共有している。変化があった時には、主治医や家族、職員で検討し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からセンター方式を記入していただき出来る事、好きな事を確認し役割りがもてるように支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から何をしたいか、何を求めているかを感じとる努力をしている。散歩したり、ドライブしケーキを食べに出かける事もある。	今年はコロナ禍のため外出は全般的に自粛しているが、普段は、近所の散歩や買い物、家族との外出、外泊ばかりでなく、利用者2、3人でケーキを食べに出掛けたり、市内の商店街や産直を覗いたり、随時のドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理以外にご本人の希望があった時には家族様了解の上で自己管理としている。ヤクルトさんが週1度訪問しているので、ご本人に選んでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ホームの電話を利用していただいている。 家族様あての年賀状に自ら書いていただき投函している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 ユニット名 そら

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に作成した貼り絵を飾って季節を感じれるようにしている。	共用空間には、食堂やリビング、畳が敷いてある小上がり、ソファコーナーが設けられている。天窓からは明るい光が差し込み、利用者はそれぞれに好みの場所でゆったりと過ごしている。日常の様子を写した写真や季節のちぎり絵などが飾られた心地よい空間となっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き自由に座って会話をしたり、お茶を飲めるような空間を作っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使いなれた物、家具の準備している。ベッドの位置、家具の位置もご家族 ご本人と相談している。	居室には、ベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、パネルヒーターが備え付けられている。利用者はそれぞれテレビや位牌、家族の写真を持ち込み、好みのカレンダーなどを飾り、自分なりの部屋を作っている。入口にかけた暖簾は、自室の目印になっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にイスを置き履き替えやすいようにし、移動線上手すりを設置している。	